



TITLE:

讀者欄：寄書歡迎

AUTHOR(S):

CITATION:

讀者欄：寄書歡迎. 天界 1935, 15(171): 357-357

ISSUE DATE:

1935-06-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/167044>

RIGHT:

讀者欄 寄書 歡迎

最近の愚感

安永正雄 (下關會員)

日毎に旭日のいきほいで發展しつつある我が東亞天文協會の躍進にたいして、會員の一人として私はひそかに心強くも感じ、頼もしくも思つてゐるものですが——これといふのも、ひとへに本部諸先生の努力は勿論のこと 地方支部幹事諸氏の協力による御かげと深き敬慕の念を禁じ得ない。

現在、東亞天文協會の地方支部は數十ヶ所あるようですが、それら地方支部が從來まで協會發展のうへにいかほどの價值ある事業を——催しを行つてきたでせうか、慙くも私は二三の支部を除いては「No」¹といはざるを得ないように思ふ。
〔若し私の誤見であれば寛容を乞ふ〕

ときたま神戸や廣島の支部で例會のやうな催しを行つて天文の實地觀測、座談がなされたりしてゐたが今ではそれもお化の足のように消滅したようだ。只夏期に開かれる倉敷の天文講習會が事業といへるぐらいで全國幾十の支部が啞の如き沈黙を守つておられるのは何がゆゑでせうか、もちろん、支部の大部が素晴らしい機械を所有せられ學術的には偉大な貢獻と寄與とを學界にさへげてゐるのは偉とすべきだと思ふのでありますが、慙くも協會發展策としての畫策に於て、もつともつと努力が拂はれてもよくはないかと思ふ。その爲には先づどうしても會員相互の團結が必要ではないでせうか。現在、全國に散在する會員が各自所屬の支部の指導下に打つて一丸となつて結び合ふことが絶體的必要事であることは云ふ

までもなきことながら、協會今後の發展の原動力は歸してこの點に有るように思ふ。

會員相互の團結といふでも全會員の結合がなく共、支部所在地の幾人、幾十人の心ある會員が協力献身するならば、その進展、擴充は期して待つべきものがあると思ふのですが、しかし現在、自分がゐる土地に幾人の會員が在住し、しかもその名は何かといふことさへ知るすきもない狀態の現在、會員相互の團結が望まれるでせうか、いわんや會員と支部さへも接近する機會の疎きに於ては到底不可能である。

それ故に〔會員對會員〕あるひは〔會員對地方支部〕の緊密なる接近の爲にも、地方支部に於て何等かの事業を定期的に開いてもらいたひものである。たとへば年に一二度、地方支部所在地で講習會又は講演會を開くこと。その他毎月一度は例會を行ふこと等である。

いづれにもせよ、東亞天文協會の飛躍的進展を期するためには先づ會員相互の團結——親睦が重要であり、然る後にこそ天文學の普及したがつて會員の増加も考へられるのである。

この意味に於て、たまたま天界誌上に發表された東亞天文協會發展策としての地方委員の設立、支部の増加ならびに支部事業の開催等の畫では、まことに機宜を得たものと思ひ、その實現の一日も速ならむことをひそかに待望してゐるものである。(10.5.25)